

# 北部病院だより 第118号(2018.4)

## Showa University Northern Yokohama Hospital

【巻頭言】 1 on 1 (ワン・オン・ワン)  
【TOPICS】 風邪と抗菌薬 (抗生剤)  
【医師の配属・異動・退職】  
【TOPICS】 J-MELS (母体救命) ベーシック・インス  
トラクターコース初開催  
【患者さんからのご意見・ご要望】  
【栄養科だより】  
【診療統計】  
【がんサロンのご案内】  
【編集後記】



昭和大学  
横浜市北部病院

90<sup>th</sup>  
SHOWA University  
至誠一貫 Since 1928

# 巻頭言 1 on 1 (ワン・オン・ワン)

皆さん、こんにちは。医療教育支援室の成島と申します。この春、多くの医療職の方々と病院に迎え入れることができましたこと、大変喜ばしく思っております。その中には、初めて医師としてこの病院に飛び込んできた臨床研修医（初期研修医）、また2年間の初期研修を修了し、自身の専門を極める目的で当院を選んできた専攻医（後期研修医）達がおります。臨床研修制度がスタートしたのは2004年4月ですから、早いもので今年で14年目を迎えました。当院の開設が2001年4月ですから、ほぼ同じ歴史を積み重ねてきたことになります。



(3列目右端) 〈医療教育支援室〉

成島 道昭 副院長

「研修医」という言葉も、既に世の中で認知されたものとなってきました。また新専門医制度（後期研修）はここ数年の準備期間を経て、この4月からスタートとなった新しい制度です。この制度に則り数年間の各専門研修を受ける者達を「専攻医」と呼びます。どうぞお見知りおきを、よろしくお願い致します。

医師として、また専門医としてのスタートを切った若者たちをどのように育てていくのか、そこには多くの方々の関わりや大変な労力と時間を費やす必要があります。彼らがどのような学生生活を送ってきたのか、またどのような経歴を積んできたのかはわからないことも多いのですが、そこには1つの基準があります。ディプロマ・ポリシー（卒業時の達成目標）というものがそれに当たりますが、昭和大学医学部では、次のような項目を掲げています。

1. 自然科学を基盤とした、基礎医学、臨床医学、社会医学を含む幅広い知識を有している。
2. 生命科学の基本的な研究手法を修得し、医学研究に寄与できる能力を有している。
3. 基本的な診察技法と診断技法および治療技法などの臨床統合能力を有している。
4. 生涯にわたって自らの課題を探究し、主体的かつ論理的に問題点を解決する能力を有している。
5. 常に専門職としての良識、倫理観、強い責任感およびリーダーシップで行動する態度を有している。
6. 患者本位の多職種連携医療を実践する豊かな人間性とコミュニケーション能力を有している。
7. 医療の国際化に対応できるコミュニケーション能力を有している。

堅苦しい言葉ではありますが、彼らがこれらを身につけているのか、真価を問われるのはまさにこれからということです。昨今、「医療安全」という言葉もよく耳にされるかと思いますが、「安心」と「安全」では示す内容も異なります。「安心」は主観的、心理的なもので、100%を願うもの、「安全」は客観的、科学的で、統計的なものと言われます。医療の世界に限らず「失敗」は避けて通りたいもの、として取り扱われますが、医療を行う上で100%の「成功」は至難の業であることも事実です。

iPS細胞研究でノーベル賞を受賞した山中伸弥教授は、その講演の中で「Vision & Hard Work」という言葉をよく使われますが、その一方で「若いうちはどんどん失敗しなさい」とも仰っています。「失敗」が許されない中で、いかに自らの能力を高めていくか。本人同様、指導者としても悩みは尽きませんが、彼らにはそんな場面で是非思い出して欲しい、こんな言葉を贈りたいと思います。

- ・ 失敗を恐れすぎない勇氣
- ・ 失敗から学ぶ謙虚さ
- ・ 失敗した人に対する共感

そんな心持を持った医師・医療人に育ってほしいと願っています。1 on 1はその名の通り、学ぶものと指導する者とが定期的に行う1対1のミーティングのことを指しますが、単なる「縦の関係」から、「クリエイティブ・ペア」、創造する関係を築いたスタッフの方々が病院のあちこちで見られるようになることを楽しみにしております。どうぞこの1年、よろしくお願い致します。



微生物の発育を阻害する物質を正しくは抗生物質・抗菌薬と言い、一般には“抗生剤”と言われることもあります。

昔は風邪をひいたときに抗菌薬を処方してもらった記憶がある方は多いと思います。しかし、近年は風邪には抗菌薬は処方しないという流れになってきております。理由はいくつかありますが、主には2つあります。1つ目は風邪の原因はほとんどがウイルスであり抗菌薬は無効である。2つ目は安易な抗菌薬の処方が薬剤耐性菌の増加につながるということが分かってきたためです。

抗菌薬（抗生剤）は細菌には効果がありますが、ウイルスには効果がありません。なぜ今まで風邪に抗菌薬が処方されてきたかという点、もちろん診察した医師がウイルスではなく細菌が原因であると診断した場合がありますが、他に抗菌薬を処方すると患者さんが良くなった経験があるため経験的に抗菌薬を処方している場合、あるいは患者さんから心配なので念のため抗菌薬が欲しいという要望があった場合等の理由があると言われています。

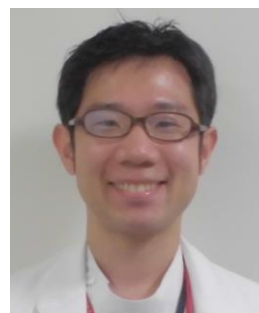
風邪（感冒）は抗菌薬を使用しなくても自然に軽快することがほとんどです。市販の感冒薬を服用して休んでいたが良くならなかったため、病院で抗菌薬を処方してもらったら翌日には良くなったという経験がある方もいらっしゃると思います。このような経験をお持ちの方は「抗菌薬は風邪に効果がある」という感覚を持ってしまいます。しかし、先ほども述べたようにウイルスに抗菌薬は無効であり風邪は自然に軽快することがほとんどであるため、実際には何もせずとも良くなっていったものがまるで抗菌薬の力で良くなったという錯覚を起こしていました。

結果として、現在世界で抗菌薬の効かない薬剤耐性菌が出現し問題視されるようになりました。世界でいうのは「抗菌薬は風邪に効果がある」という思い込みは、日本だけではないということです。例えば2010年に英国で行われた意識調査では英国国民の約半数が抗菌薬はウイルス性疾患に対して有効であると認識していたという報告があります。

抗菌薬の処方なしで悪くなったら？という不安を持たれる方もいるかと思います。それに対する1つの解として「抗菌薬の延期処方」という戦略があります。風邪の患者さんに抗菌薬を処方せず、症状が悪化した際に改めて診察し必要に応じて抗菌薬を処方するという方法です。「抗菌薬の延期処方」の研究では30日後の患者さんの全身健康状態や満足度については抗菌薬をすぐに処方した場合と差がなかったと報告されています。

「抗菌薬の延期処方」を実施するには、丁寧な説明が必要であると考えています。今まで風邪に対し抗菌薬を処方していただいていた患者さんの中には、すぐに良くなないと抗菌薬を服用していないためだと考えて複数の医療機関に受診をしてしまう方がいらっしゃるかもしれません。抗菌薬を適切に使用し薬剤耐性菌の増加を防ぐには、初めに診てもらった病院に再度受診することが重要になります。

最後に耐性菌の発生を防ぐため抗菌薬使用量の削減が戦略的な目標となっておりますが、これは決して単純に抗菌薬の使用をやめるという意味ではなく、必要に応じて処方することになります。ご理解のほどよろしくお願いいたします。



〈感染管理室〉

山口 勇人 副室長

#### 参考

抗微生物薬使用の手引き 第1版（厚生労働省健康局結核感染症課）

薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（平成28年4月5日 国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議）



# 医師の配属・異動・退職

## 新規配属医師

2018 年 4 月 1 日付

### 【附属施設より】

|        |              |                 |              |
|--------|--------------|-----------------|--------------|
| ・川崎 恵吉 | (整形外科)       | 大学病院            | 整形外科より       |
| ・白旗 敏之 | (整形外科)       | 大学病院            | 整形外科より       |
| ・山口 正哉 | (整形外科)       | 藤が丘病院           | 整形外科より       |
| ・伊東 亮太 | (整形外科)       | 藤が丘病院           | 整形外科より       |
| ・林 誠   | (呼吸器センター)    | 藤が丘病院           | 呼吸器内科より      |
| ・柿内 祐介 | (呼吸器センター)    | 藤が丘病院           | 呼吸器内科より      |
| ・青木 真史 | (こどもセンター)    | 藤が丘病院           | 小児科より        |
| ・村川 哲郎 | (こどもセンター)    | 江東豊洲病院          | 小児内科より       |
| ・上岡 康昭 | (メンタルケアセンター) | 烏山病院            | 精神神経科より      |
| ・加藤 正明 | (メンタルケアセンター) | 烏山病院            | 精神神経科より      |
| ・松信 亨  | (メンタルケアセンター) | 烏山病院            | 精神神経科より      |
| ・徳増 卓宏 | (メンタルケアセンター) | 烏山病院            | 精神神経科より      |
| ・井藤 尚仁 | (内科)         | 大学病院            | 神経内科より       |
| ・高橋 剛  | (内科)         | 江東豊洲病院          | 内科より         |
| ・黒木 知明 | (形成外科)       | 藤が丘病院           | 形成外科より       |
| ・油井 健史 | (耳鼻咽喉科)      | 藤が丘病院           | 耳鼻咽喉科より      |
| ・越智 英行 | (麻酔科)        | 歯科病院            | 歯科麻酔科より      |
| ・飯島 伸介 | (リハビリテーション科) | 藤が丘病院           | リハビリテーション科より |
| ・伏井 玲香 | (歯科・歯科口腔外科)  | 歯学部顎顔面口腔外科学部門より |              |

### 【他施設より】

|        |           |               |
|--------|-----------|---------------|
| ・石山 美咲 | (消化器センター) | 練馬光が丘病院より     |
| ・笹沼 靖子 | (消化器センター) | 東京内視鏡クリニックより  |
| ・京田 学是 | (こどもセンター) | 大口東総合病院より     |
| ・八子 一  | (麻酔科)     | 東京慈恵会医科大学病院より |
| ・荘田 博朗 | (麻酔科)     | 東京慈恵会医科大学病院より |

### 【初期臨床研修より】

|         |           |          |
|---------|-----------|----------|
| ・高階 祐輝  | (消化器センター) | 昭和大学     |
| ・瀧島 和美  | (消化器センター) | 金沢医科大学   |
| ・持田 賢太郎 | (消化器センター) | 徳島大学     |
| ・垣迫 健介  | (消化器センター) | 久留米大学    |
| ・栗原 亜梨沙 | (消化器センター) | 北里大学     |
| ・瀧島 弘康  | (呼吸器センター) | 昭和大学     |
| ・飛鳥井 邑  | (循環器センター) | 東京女子医科大学 |
| ・中村 圭佑  | (循環器センター) | 昭和大学     |
| ・福永 奈津  | (こどもセンター) | 昭和大学     |
| ・唐渡 諒   | (こどもセンター) | 昭和大学     |
| ・八木 直美  | (こどもセンター) | 昭和大学     |
| ・金井 貴宏  | (放射線科)    | 昭和大学     |
| ・島崎 咲   | (麻酔科)     | 島根大学     |
| ・下里 誠司  | (内科)      | 昭和大学     |
| ・吉田 輝龍  | (内科)      | 昭和大学     |
| ・和田 紗矢香 | (内科)      | 昭和大学     |

## 【附属施設へ】

|        |             |   |       |        |
|--------|-------------|---|-------|--------|
| ・富岡 大  | (メンタルケアセンター | ⇒ | 藤が丘病院 | 精神神経科) |
| ・大貫 裕太 | (こどもセンター    | ⇒ | 藤が丘病院 | 小児科)   |
| ・服部 透也 | (こどもセンター    | ⇒ | 藤が丘病院 | 小児科)   |
| ・中野 有也 | (こどもセンター    | ⇒ | 大学病院  | 小児科)   |
| ・氏家 岳斗 | (こどもセンター    | ⇒ | 大学病院  | 小児科)   |
| ・津澤 佳代 | (整形外科       | ⇒ | 大学病院  | 整形外科)  |
| ・池田 純  | (整形外科       | ⇒ | 大学病院  | 整形外科)  |
| ・菱澤 亨  | (整形外科       | ⇒ | 藤が丘病院 | 整形外科)  |

## 【学外研修・国内留学へ】

|        |           |
|--------|-----------|
| ・黒田 佑介 | (呼吸器センター) |
| ・石垣 智之 | (消化器センター) |
| ・漆原 史彦 | (消化器センター) |
| ・山内 章裕 | (消化器センター) |
| ・小川 悠史 | (消化器センター) |
| ・武田 健一 | (消化器センター) |
| ・小川 正隆 | (消化器センター) |
| ・倉田 知幸 | (消化器センター) |
| ・小倉 庸平 | (消化器センター) |
| ・渡邊 佳孝 | (こどもセンター) |
| ・齋藤 秀嘉 | (こどもセンター) |
| ・豊田 純也 | (こどもセンター) |
| ・吉山 智美 | (脳神経外科)   |

## TOPICS J-MELS (母体救命) ベーシック・インストラクターコース初開催

2018 年 2 月 24 日(土曜日)と 25 日(日曜日)の 2 日間に渡り、神奈川県産婦人科医会主催・当院共催 J-MELS (母体救命) ベーシックコースおよびインストラクターコースが当院で初めて開催されました。

日本母体救命システム普及協議会(J-CIMELS)は妊産婦死亡の更なる減少を目指し、産科医療に関連する医療者に救命処置などを普及するために、日本産婦人科医会、日本産科婦人科学会、日本周産期・新生児医学会、日本麻酔科学会、日本臨床救急医学会、京都産婦人科救急診療研究会、妊産婦死亡症例検討評価委員会が共同で設立した組織です。この協議会が行う母体救命講習会は、母体急変現場での緊急対応を学ぶベーシックコースと高次病院の医療資源を前提とした



〈産婦人科〉  
土肥 聡 助教

評価と連携を学ぶアドバンスコース、およびそれらのインストラクターコースからなります。

神奈川県内の医療施設を中心にベーシックコースは 50 名、インストラクターコースは 24 名の医師や助産師、看護師が受講しました。

インストラクターとして当院産婦人科から市塚清健先生、加藤明澄先生、松浦玲先生、関根愛子先生、救急センターから神尾義人先生、麻酔科から藤井智子先生に参加していただき、コースディレクターとして土肥が参加しました。

当院のみならず、地域における産科救急の安全安心を提供できるために J-MELS ベーシックコースの普及に当院産婦人科が尽力して行きたい所存です。

(文責：産婦人科・土肥聡、長塚正晃)

## 患者さんからのご意見・ご要望

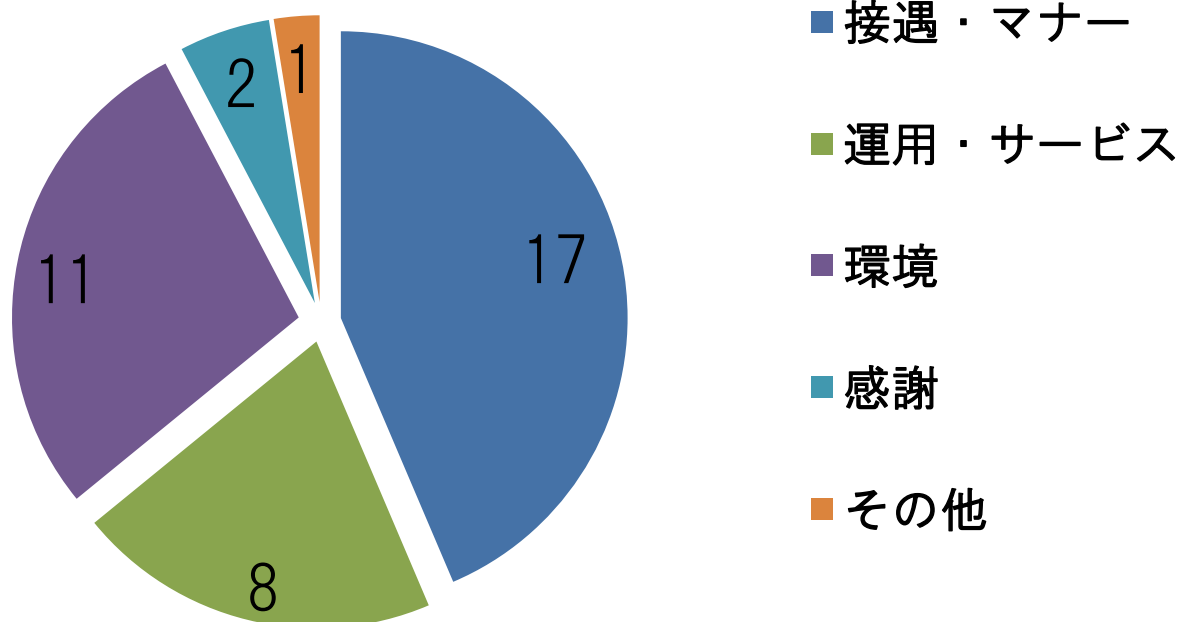
日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきます。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

| ご意見・ご要望                                                                                                                                                                  | 回答・改善等                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>&lt;環境について&gt;</p> <p>喫煙室を作ってほしい。</p> <p>他 10 件</p>                                                                                                                   | <p>当院は地域中核病院、教育病院であり、受動喫煙対策、禁煙促進を定めた「健康増進法」の制定を受け、禁煙外来の設置ばかりでなく「病院敷地内全面禁煙」とさせていただいております。喫煙の健康被害は科学的に確定した事実であり、禁煙により各種疾患の予防、進展抑止ばかりでなく、医療費抑制も期待できます。是非、ご理解の程、お願い申し上げます。</p>                                                                              |
| <p>&lt;感謝について&gt;</p> <p>定期検査で来ましたが、いつからか閉所恐怖症になり、MRI も抵抗が出るようになりました。今回の看護師さんと技師さんに寄り添っていただき、安心して検査を受けることができました。寄り添いの大切さを体感した1日でした。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>他 1 件</p> | <p>この度は MRI 検査の対応に関して、お褒めと感謝のお言葉をいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>MRI 検査は狭い窮屈な空間の中、大きな騒音と長い検査時間という患者さんに負担の多い検査であります。その中で我々スタッフは、できる限り患者さんの負担を減らすよう努力している次第であります。</p> <p>今後も今回の対応が他の患者さんにもできるよう、このご意見を共有し、安心と安全が提供できるようにしていきたいと思っております。</p> <p>ありがとうございました。</p> |

平成30年2月  
ご意見・ご要望の総計  
39件



## ◎Vol.28. 春キャベツ◎

陽射しが暖くなり、少しずつ春を感じるようになりました。

春野菜のひとつ、春キャベツ。キャベツ由来の成分が含有された胃腸薬があることからわかるように、キャベツには胃腸の働きを助ける成分が含まれています。そのままだも、旬のあさりとさつと酒蒸しにしても、アンチョビと合わせてペペロンチーノにしてもよし。和洋中何でも合う春キャベツを食べて、歓送迎会の多い今の季節、胃をいたわりながら過ごしてみてもいかがでしょうか。

## ★栄養科の取り組み



厨房職員は、始業前に各自で衛生についてのチェック項目をもうけた個人衛生点検表を用いて日々の体調管理を確認し、仕事に従事しています。

# 診療統計

前年同月比 ( )内は1日平均

診療実日数 2017年2月(入院:28日・外来:23日)、2018年2月(入院:28日・外来:23日)

|         | 入院患者数           | 外来患者数             | 救急搬送数       | 手術件数        |
|---------|-----------------|-------------------|-------------|-------------|
| 2017年2月 | 17,796人(635.6人) | 26,295人(1,143.3人) | 412件(14.7件) | 751件(37.6件) |
| 2018年2月 | 17,459人(623.5人) | 25,253人(1,098.0人) | 461件(15.4件) | 661件(34.8件) |

## 【がんサロンのご案内】

日 時: 4月19日(木) 14:00~

場 所: 当院中央棟9階 大会議室

テーマ: もしも、ガンと言われたら

1. 心がけておきたいこと、セカンドオピニオンについて

講演者: がん相談支援センター看護師

皆さまの、沢山のご参加を心よりお待ちしております。

詳細は当院ホームページよりご覧ください。(右記QRコード)



## ✿ 編集後記 ✿

冬と言われた冬は思いの外、足早に立ち去り、うららかな春をいつも通りに迎えております。昨冬はインフルエンザが流行しましたが、気温が上昇し、空気が潤いを取り戻すと収束しました。新年度を迎え、今年も桜の花とともに多くの新人が北部のスタッフとして入職しております。患者さんには色々ご迷惑を掛ける場面もあると思いますが、将来を担う医療スタッフの教育にご協力をお願い申し上げます。皆様の温かい励ましと厳しい叱咤が素敵な医療人を育む力となります。

今年度も「北部だより」を引き続きご愛読下さい。毎年少しずつ内容を変更し、より良い内容となるように工夫を凝らしております。ご要望等ありましたら、遠慮なくご連絡下さい。それから、1日も早く花粉の飛散が収まりますように。

〈広報委員長 緒方 浩顕〉



北部病院だより 第118号

平成30年4月1日発行

発行責任者 門倉 光隆(昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 緒方 浩顕(広報委員会 委員長)

発行 地域中核病院 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。